



Title	はじめに
Author(s)	大井, 晴男; 天野, 哲也
Citation	北海道大学総合博物館研究報告, 8, ii-ii
Issue Date	2016-03-31
Doc URL	<a href="http://hdl.handle.net/2115/61742">http://hdl.handle.net/2115/61742</a>
Type	bulletin (other)
File Information	v.8-3_introduction.pdf



[Instructions for use](#)

## はじめに

北海道大学文学部附属北方文化研究施設による目梨泊遺跡の発掘調査は、本書にその詳細を述べるように、1967年度から1974年度に至る8年間に、六次にわたって行われている。筆者らの当初の予定では、その報告書は、1976・1981年に東京大学出版会から刊行された『オホーツク文化の研究 2・3 香深井遺跡 上・下』に続いて刊行することを予定し、そのための原稿執筆が進行していたが、諸般の事情によってその刊行が困難となり、原稿の執筆もまた中断していたのである。

その後、旧国鉄興浜北線の廃止に伴って、目梨泊遺跡の付近を通っている国道238号線の整備計画が立案され、1986年に、筆者らにそのための‘事前調査’の依頼がもたらされたが、筆者らは安易に道路整備計画のために埋蔵文化財を‘事前調査’の名によって破壊することに反対し、これを断っている。結局、この‘事前調査’は、枝幸町教育委員会によって1987年に実施され、その報告書は、翌1988年に公刊されている。さらに1989年には国道の新たなルート変更計画が立案され、これも枝幸町教育委員会によって、1990～1992年にそのための‘事前調査’が行われ、1994年には、その報告書が公刊された。

その後、枝幸町教育委員会・オホーツクミュージアムえさし・筑波大学歴史人類学系・札幌大学文化学部の共催による‘学術調査’が2000～2002年にかけて実施され、2004年にその‘発掘報告書’が刊行された。

なお、本書では、第Ⅰ部で六次におよんだ北海道大学文学部附属北方文化研究施設による発掘調査について記載する。そのかなりの部分は、発掘調査の終了後、それほど時間をおかずに書かれたものであり、その後の発掘調査の結果はその記述に反映されていないが、特に必要がある場合、註の中に(括弧つきで)それらに言及することがある。また、第Ⅱ部では、これまでに実施されたすべての発掘調査の成果を網羅して、現時点(2004年)までに明らかになっている目梨泊遺跡に関する知見について、さらにこれに関係する諸問題について、総括的に、議論しておくことにする。

そこにどんな事情があったにせよ、北海道大学文学部附属北方文化研究施設の目梨泊遺跡における‘発掘調査’の結果の公刊がいちじるしく遅くなってしまったことは、筆者らの責任である。ここに、あらためて、深くお詫びしておくことにしたい。

大井 晴男・天野 哲也